

経営比較分析表（令和6年度決算）

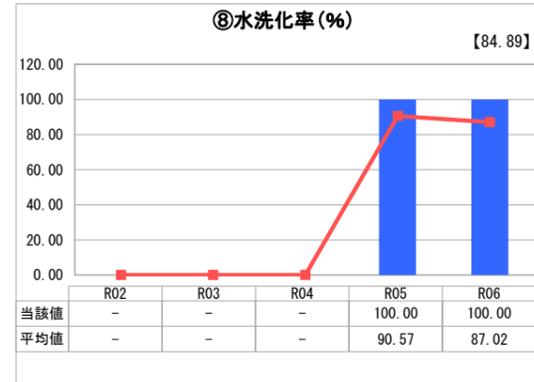
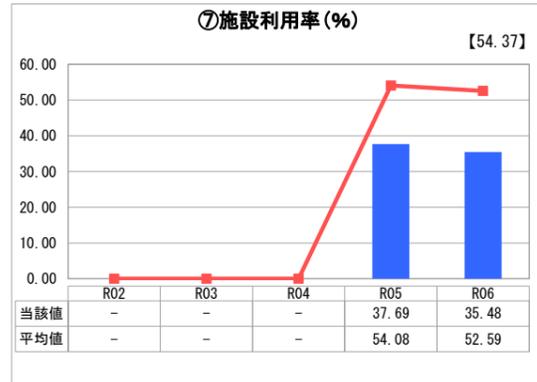
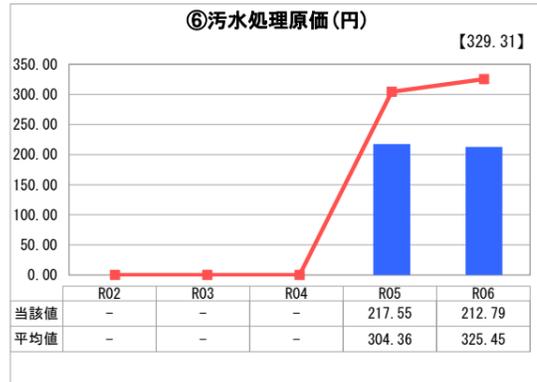
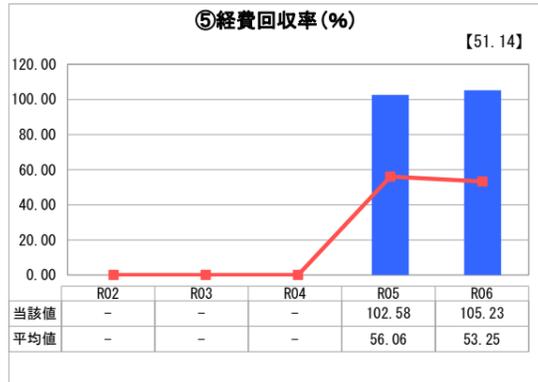
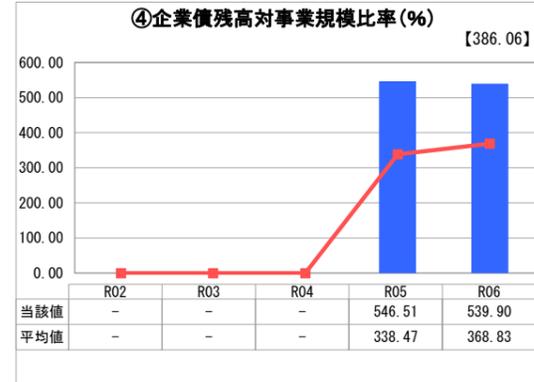
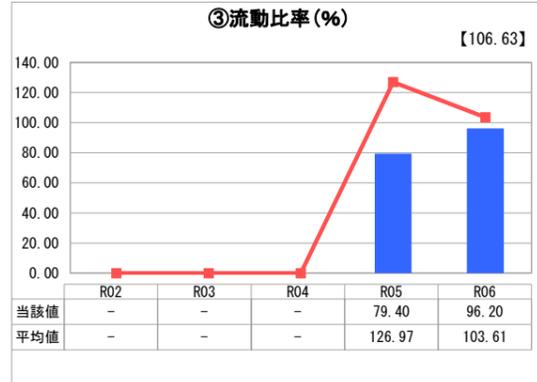
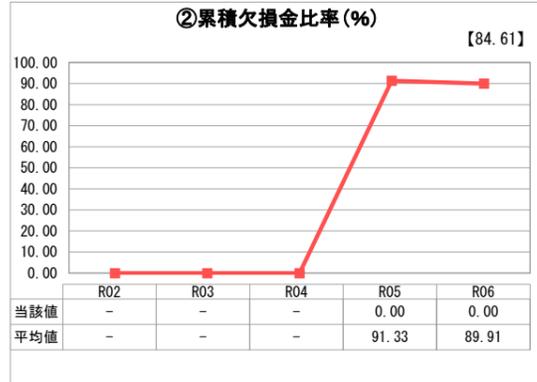
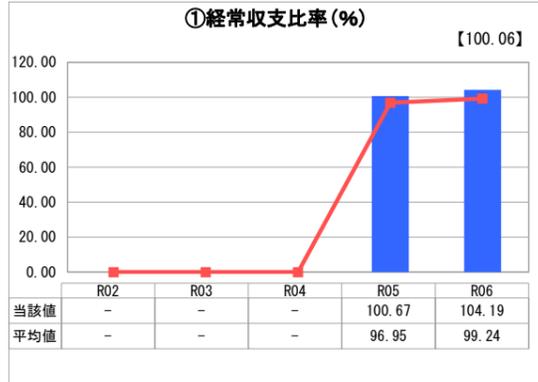
愛媛県 鬼北町

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	下水道事業	特定地域生活排水処理	K2	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)
-	63.01	16.52	100.00	3,960

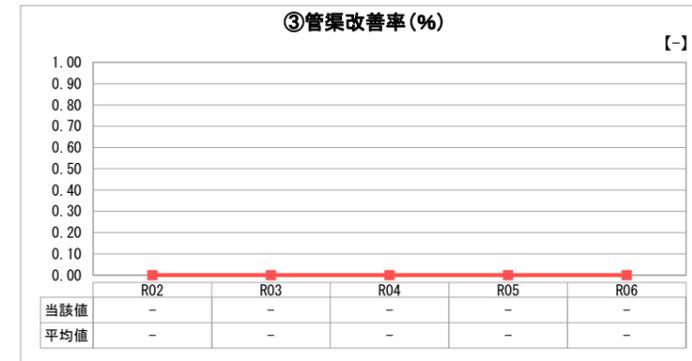
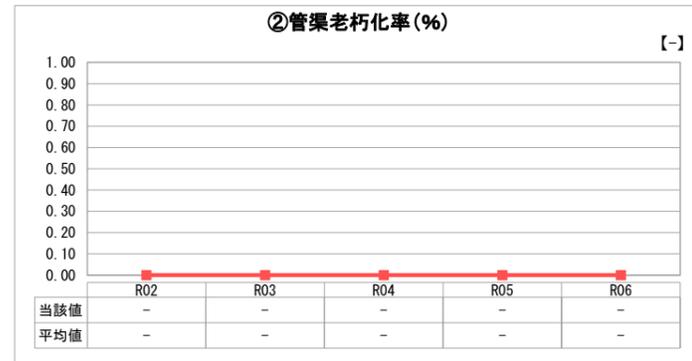
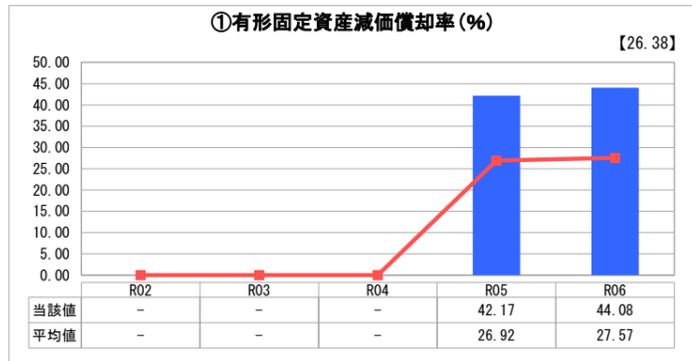
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
9,108	241.88	37.66
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km ²)	処理区域内人口密度(人/km ²)
1,486	0.28	5,307.14

グラフ凡例	
■	当該団体値(当該値)
—	類似団体平均値(平均値)
【	令和6年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

設置基数の増加により、年々処理区域人口は増加している。例年浄化槽の基数が増え、使用料収入は増加している。しかし、有形固定資産減価償却率が高いことから分かるとおり、施設の老朽化が進んでいるため、毎年多額の修繕費を計上している。今後老朽化に伴い、修繕に関する費用が更に増えていくことが見込まれる。流動比率が100%を下回っているが、これは建設改良費に起債を充てているためである。しかし、現預金が少なく、補助金ありきの経営になっているため、資金繰りには今後も注意していく必要がある。なお、流動比率改善の要因として、前年度決算において利益を計上したことが上げられる。

2. 老朽化の状況について

平成15年度から事業を開始して現在まで、老朽化による浄化槽の破損が見られる。一般的に、合併処理浄化槽の耐用年数は、およそ30年以上とされているが、経年劣化により、槽内の部品等の破損がみられるものも発生している。部分的な修繕により不具合は解消されており、浄化槽本体を交換するなど事案は発生していない。また、本体以外のフロアなどの、経常的な修繕に加え、設置後10年を経過した浄化槽が多くなり、高額な修繕（フロアや放流ポンプの交換）が発生している。設置基数の増加と老朽化に伴い、今後も修繕費用が増加することが見込まれる。フロアの故障は、過去の修繕履歴を参照し、経過年数に応じて、新品交換するか、修繕を行うかを決定している。

全体総括

令和5年度から、鬼北町の特定地域生活排水処理事業（浄化槽事業）は、農業集落排水事業と統合し、鬼北町下水道事業会計として、公営企業会計に移行した。今後、老朽化や物価高騰が進み、維持管理に係る費用が更に増加することが見込まれる。現在の使用料金は、一戸に住んでいる人数により決定する。当町は人口減少が著しいことから、経費回収率が悪化していくことが予測されるため、使用料の見直しを行う必要がある。社会情勢を考慮した経営分析を行い、料金改定の必要があるかを精査するとともに、今後も浄化槽の適正な維持管理を行う。

※ 「経常収支比率」、「累積欠損金比率」、「流動比率」、「有形固定資産減価償却率」及び「管渠老朽化率」については、法非適用企業では算出できないため、法適用企業のみ類似団体平均値及び全国平均を算出しています。